

平成23年度

十勝シーニックバイウェイ
十勝平野・山麓ルート活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題
5. 平成22年度活動報告への助言に対する状況報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称:十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート				報告者:十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート代表 三井 福成				報告年月:2012/3/31	
	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
景観	地域の景観資源を守ろう、活かそう	歴史的な景観資源を発掘し継承する		—	—	—	—	—	花壇整備などを通して、地域間の連携基盤づくりを進めるとともに、平成22年度から不要看板をルートシンボルへ塗り替え再生を行う事業を継続し、景観形成に向け取り組みを行った。また、平成22年度に引き続き、十勝シーニックバイウェイ連携事業である、とかちイエローリボンプロジェクトにおいても、ひまわり植栽面積を拡大し、優れた景観の創出を目指した。
		十勝の山麓・平野に広がる美しい田園景観を活かす		—	—	—	—	—	
	特色溢れる景観を創出しよう	景観の見せ場を創る		—	—	—	—	—	
		沿道を花と緑で彩る	1	十勝シーニックバイウェイ連携事業 :イエローリボンプロジェクト	とかちイエローリボンプロジェクト実行委員会	平成23年6月～11月	主催:20人程度 一般:100人程度	-	
	2		北海道ガーデン街道との連携事業:ルート沿線への植栽検討	十勝SBW、大雪・富良野ルート、北海道ガーデン街道	平成23年9月～	主催:10人	—		
	沿道景観を取り巻く環境向上に向けた取り組み	道路工作物の景観を整える	3	景観資源と地域資源を守ろう・活かそう ～不要看板の再生～	十勝平野・山麓ルート (景観形成分科会)	平成23年11月16日	主催:15人	—	
手入れの行き届いた沿道景観をつくる									
地域	地域が一体となった情報発信の検討	広域的な地域情報発信の連携	4	十勝シーニックバイウェイ連携事業 :シーニックカフェスタンプラリー	十勝シーニックバイウェイ	平成23年7月15日～ 平成23年9月30日	主催:15人程度 一般:応募54人、 完走16人	—	特に道東道の開通を機に十勝へのアクセス性が高まった今、地域の魅力を発見、創造していくと同時に、これを発信していく機会、手段を持つことが重要である。平成22年度に作成した「十勝平野・山麓ルートマップ」が各地で高い評価を得ていることから、「自治体区切りではなく広域での情報提供」が有効であることが示唆された。これを受け、平成23年度はテーマを絞った広域マップである「パークゴルフ場マップ」を作成した。今後も、この種の情報発信を継続的に行うことが重要と考える。
			5	ルートマップの作成:パークゴルフ場マップ	十勝平野・山麓ルート (観光振興分科会)	平成23年6月1日 平成23年8月8日	主催14人	A - 1	
		沿道での情報発信による案内誘導の仕組みづくり	6	十勝シーニックバイウェイ共通案内標識の検討・設置	十勝シーニックバイウェイ	平成22年12月～	主催:15人	—	
	地域のシーニック運営への意識を高めよう	持続的なルート運営の為の運営体制の検討	7	釧路視察(研修会)	十勝シーニックバイウェイ	平成23年8月30日～31日	主催:35人 (釧路ルート含む)	—	
		地域にシーニックを浸透させよう	8	十勝シーニックバイウェイ連携フォーラム	十勝シーニックバイウェイ	平成23年10月2日	主催:40人程度 一般:100人以上	—	
	観光	地域の農・食・産品を繋げて活かそう	地場産品・食をPRする	9	シーニックカフェ美蔓パノラマパーク (道路敷地の利用)	清水町、清水町観光協会、 帯広開発建設部	平成23年7月17日～ 8月28日	主催:15人 一般:465人	
農業を活かす									
個店を活かす仕組みづくり				—	—	—	—	—	
提案型観光地づくりの検討		野外活動型滞在観光地づくり	10	モニターツアー(星空と馬の散歩)	十勝平野・山麓ルート (地域づくり分科会)	平成23年9月28日(会議) 平成23年11月12日～13日(実施)	主催:11人 一般:10人	—	
			11	馬の道プロジェクト ～実地調査と案内看板の設置～	十勝平野・山麓ルート (地域づくり分科会)	平成23年12月20日(設置)	主催:11人	-	
健康保養型滞在観光地づくり			—	—	—	—	—		
地域資源の発見と共有に取り組もう	地域資源の発見と共有	12	フォトコンテスト	足寄町観光協会、 十勝平野・山麓ルート (観光振興分科会)	平成23年6月1日 平成23年7月25日 平成23年8月8日 平成23年10月1日～12月25日(実施)	一般:応募253人	A - 3		

【参加人数】主催側：14人



十勝平野・山麓ルート

TOKACHI Scenic Byway / Tokachiheiya Sanroku Route

活動名：シーニックカフェ美蔓パノラマパーク（道路敷地の利用）

- 【概要】 清水町美蔓パノラマパークにおいて、北海道開発局の道路敷地を占用しシーニックカフェを実施した。観光協会や地域住民の協力のもと運営を行い、移動販売車での飲食物販売も行った。次年度も、より多くの地域住民を巻き込みながら、営業時間、販売品目などの検討を加え、継続的な実施に向けて取り組む予定である。
- 【日時】 平成23年7月17日～8月28日・計7回営業（日・祝のみ）
- 【場所】 清水町 美蔓パノラマパーク（国道274号沿い）
- 【主催】 清水町（道路占用者）、清水町観光協会
- 【運営人数】 5人程度／日
- 【参加人数】 主催側：15人、一般参加：465人



シーニックカフェ美蔓パノラマパークの実施状況

十勝平野・山麓ルート

TOKACHI Scenic Byway / Tokachiheiya Sanroku Route

活動名：フォトコンテスト

- 【概要】 ルート内の隠れた資源、一瞬の美しい光景等新しい魅力を発見するために、フォトコンテストを実施した。応募された写真は、ルートに関するPR・情報発信にも活用予定である。今後は、ルート内での入賞作品の巡回展などを実施していきたい。
- 【日時】 (観光振興分科会・担当者会議) 平成23年6月1日・平成23年7月25日・平成23年8月8日
(実施) 平成23年10月1日～12月25日
- 【場所】 十勝管内の道の駅、ルート内の各自治体、観光協会等
- 【検討機関】 観光振興分科会・足寄町・士幌町・上士幌町
- 【参加人数】 主催側：10人
一般応募：250人
- 【応募作品】 253点

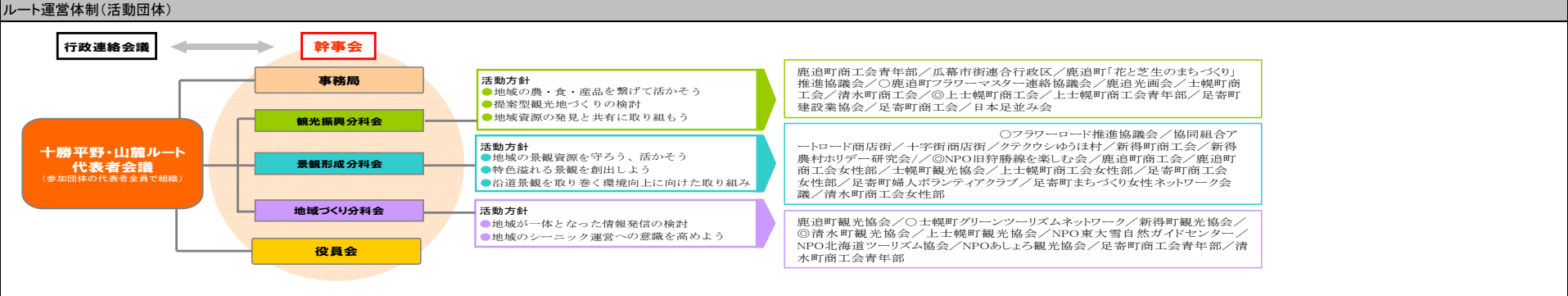


パンフレット

3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称: 十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート	報告者: 十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート代表 三井 福成	報告年月: 2012/3/31
--------------------------------	--------------------------------------	-----------------

活動団体
清水町観光協会／清水町商工会／清水町商工会青年部／清水町商工会女性部／十勝千年の森／新得町観光協会／新得町商工会／新得農村ホリデー研究会／“特定営利活動法人旧狩勝線を楽しむ会”／士幌町商工会／士幌町グリーン・ツーリズムネットワーク／士幌町観光協会／上士幌町商工会／上士幌町観光協会／上士幌町商工会青年部／上士幌町商工会女性部／“NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンター”／鹿追町観光協会／鹿追町商工会／鹿追町商工会青年部／鹿追町商工会女性部／瓜幕市街連合行政区／“鹿追町花と芝生の町づくり推進協議会”／フラワーマスター連絡協議会／フラワーロード推進協議会／協同組合アートロード商店街／十字街商店会／クテクウシゆうほ村／鹿追光画会／NPO法人北海道ツーリズム協会／鹿追郷土史研究会／足寄町商工会／足寄町商工会青年部／足寄町商工会女性部／NPOあしよ観光協会／足寄町建設業協会／日本足並み会／足寄町まちづくり女性ネットワーク会議／足寄町婦人ボランティアクラブ／陸別町商工会／陸別町観光協会／陸別町商工会青年部／陸別町商工会女性部／陸別町観光協会／陸別町建設業協会



	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	ルート運営代表者会議		● 5/13											
	幹事会	● 4/22												
	分科会			●6/1 (観光)		●8/8 (観光)	●9/28 (地域)		●11/16 (景観)					
	3ルート連携代表者会議	●4/13	●5/10(代表のみ)	●6/20		●8/4			●11/7	●12/15			●3/12(代表のみ)	不要看板の活用 拡大、馬の道を 介した各町との連 携、テーマごとの マップ作成などに 取り組んでいく

ルート名称: 十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート	報告者: 帯広開発建設部	報告年月: 2012/3/31
--------------------------------	--------------	-----------------

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	行政連絡会議の実施		●5/23				●9/8				●1/30			

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称:十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート			報告者:帯広開発建設部		報告年月:2012/3/31		
	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成23年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
景観	特色溢れる景観を創出しよう	とかちイエローリボンプロジェクト	平成23年6月～11月	自治体 商工会 帯広開発建設部	各自治体、商工会、帯広開発建設部で、ひまわり植栽に向けて実施箇所検討及び種植え・刈り取り・種回収等に積極的に参加した。開花時期には旅行者が写真撮影を行う風景が見られ、地域の景観向上に効果があがっている。 今後は、実施箇所の更なる拡大と、子どもの参加者が増加するよう検討を行うことが必要である。	行政機関がSBWと連携して、効果をあげる取り組みが増えている。 このため、今後もSBWとの連携を強化し、広域での取り組みを進めていくことが必要である。	1
地域づくり	地域が一体となった情報発信の検討	「十勝シーニックバイウェイ実務者のためのQ&A集」作成	平成23年11月	行政連絡会議 各団体	帯広開発建設部が主体となって、十勝シーニックバイウェイ参加団体の実務担当者に向け、SBWとは何か、SBWの活動内容・効果等をわかりやすく説明するQ&A集を作成した。 今後は、特にSBWへの参加効果充実に向け、各機関で把握している効果の集約を行いたい。		2
		十勝シーニックバイウェイ連携フォーラム	平成23年10月2日	自治体 商工会 帯広開発建設部	十勝シーニックバイウェイ3ルートが主体となり、自治体や商工会、帯広開発建設部とともに連携強化に向けたフォーラムを実施した。今年は、道の駅なかさつないを会場とし、帯広開発建設部と十勝SBWとで道の駅と調整を行いながら、十勝の食についての基調講演、地域の特産品を持ち寄った交流会等を行った。一般向けの内容とし道の駅で開催したため、一般者の参加もありSBWの活動をPRすることができた。 今後は、さらに一般者の参加増加に向け会場や開催日時の検討を行ってきたい。		3
観光	地域資源の発見と共有に取り組もう	シーニックカフェ美蔓パノラマパークの実施	平成23年7月17日～8月28日	清水町 清水町観光協会 帯広開発建設部	清水町美蔓パノラマパーク(国道駐車帯:帯建は道路占用許可を実施)で、清水町、清水町観光協会と地域住民のボランティアによりシーニックカフェを開催した。優れた景観に加え飲食物の提供、周辺観光情報の提供も実施し、利用者の満足度が高かったため継続開催を予定している。 次年度以降は、観光客が次に向かう地域の観光情報の拡充や、地域住民の参加の拡大に努めることが必要である。		4
		十勝シーニックバイウェイ共通案内標識の検討・設置	平成22年12月～実施中	自治体 帯広開発建設部	道路利用者への案内機能の向上を目的に、十勝シーニックバイウェイと自治体、帯広開発建設部が共通の案内標識に向け、設置箇所やデザインの検討を行った。 この結果をもとに、各道路管理者が分担して案内標識を設置した。 今後は、追加設置箇所の検討と設置に向けた取り組みを行う。		5
		道の駅との連携	平成23年7月～実施中	道の駅 自治体 帯広開発建設部	道の駅との連携強化を図るため各道の駅に帯広開発建設部が主体となって、「十勝よりみちインフォメーションボード」を設置し、地域おすすめ情報をタイムリーに発信した。 今後は、近隣地域の情報把握も行い、利用者ニーズに応じ提供情報を複数用意できるように進めていきたい。		6

5. 平成22年度活動報告への助言に対する状況報告

ルート名称: 十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート	報告者: 十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート代表 三井 福成	報告年月: 2012/3/31
--------------------------------	--------------------------------------	-----------------

平成22年度活動報告への助言	平成23年度 状況報告	備考
(ルート審査員からの助言) シーニックバイウェイ北海道の持続的推進を図るため、引き続き情報発信やPR活動等によるブランドの形成、地域への浸透に努めるとともに、地域ビジネスの展開、人材育成等によるルート活動の基盤強化や幅広い関係機関による支援体制の強化に取り組まれない。 特に、本格実施から6年が経過し指定ルートも拡大、地域特性に応じた多種多様な成功事例や、課題等も明確になってきていることから、それらを共有しシーニックバイウェイ北海道をさらに活性化させる方策を検討されたい。	●情報発信について 候補ルート時代より、地域資源の発掘を続けてきたが、これを基盤としてルートマップという形に落とし込んだこと、あるいは不要看板を活用してルートのPRを可能としたことの成果は大きい。今後は、これまで撮影した写真等の資源情報を整理し直し、体系的な管理を行うことで、スムーズな情報発信、より踏み込んだ形での情報提供が行えるようにする必要がある。 ●ブランドの形成・地域ビジネスについて 昨年度来、当ルートを特徴づける取り組みとして「馬の道プロジェクト」を継続的に行ってきた。十勝の魅力を活かした取り組みであるだけでなく、総延長125kmを目指す馬の道は、各町の連携が欠かせないものであり、体験・宿泊・景観・寄り道という極めてシーニックらしい理想的な形でのブランド形成と成り得る取り組みである。一部看板も取り付けられたことから、ビジネス化(商品化)に向けた試験的取り組みを進めていく必要がある。 ●人材育成とルート基盤強化について 人材育成にはルートの組織(運営代表者会議)の内部でのもの、外部におけるそれに分けられると考える。内部においては、地域の若い年代が、徐々にルートに対してより積極的に関わってくる機会が増え、個人の行動力によって、地域に新しい動きをもたらし始めてきたところである。一方で、外部から新しい人材を取り込むこと、あるいは連携することに関しては、未だ明確な成果を得ていない。これには、「シーニックの実態」が十分に地域の人に伝わっていないことが根本的な原因と考えられる。今後は、ルート活動の報告や、地域の魅力紹介などで構成されるコミュニティ誌、あるいは「かわら版」などのツールを検討し、地域浸透に努める必要があると考える。	

ルート名称: 十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート	報告者: 帯広開発建設部	報告年月: 2012/3/31
--------------------------------	--------------	-----------------

平成22年度活動報告への助言	平成23年度 状況報告	備考
(ルート審査員からの助言) シーニックバイウェイ北海道の持続的推進を図るため、引き続き情報発信やPR活動等によるブランドの形成、地域への浸透に努めるとともに、地域ビジネスの展開、人材育成等によるルート活動の基盤強化や幅広い関係機関による支援体制の強化に取り組まれない。 特に、本格実施から6年が経過し指定ルートも拡大、地域特性に応じた多種多様な成功事例や、課題等も明確になってきていることから、それらを共有しシーニックバイウェイ北海道をさらに活性化させる方策を検討されたい。	●情報発信について 平成22年度に発行した「十勝平野・山麓ルートマップ」は内容が充実しており、地域の情報がまとまって記載されていると好評であり、各種配布物の中で一番手に取られている状況である。平成23年度はテーマを絞った「パークゴルフ場マップ」を作成し、利用者ニーズにあった情報発信を進めている。 ●ブランドの形成・地域ビジネスについて 「馬の道プロジェクト」においては着実に整備が進み、ルート案内標識の設置等の取り組みが行われた。また、乗馬体験や星空観察をメインとしたモニターツアーも実施した。当地域のアウトドア体験は種類も多くレベルも高いことから、地域ブランド形成に向けて取り組みを進めていきたい。 ●人材育成とルート基盤強化について 今年度新たに陸別町が加入し活動団体も大幅に増加した。活動の幅も広がっており、今後のさらなる発展が期待される。	